

二、日本に伝わった中国解剖図

酒井シヅ

三、医学史、歯科医学における横浜

榊原悠紀田郎

四、日本の法医学、その始まり

池本卯典

平成十八年一月例会

平成十八年一月二十八日

順天堂大学医学部九号館二階八番教室

シンポジウム「個人情報保護と医学史研究」

一、はじめに

岡田靖雄

二、個人情報保護法と個人史研究

弁護士 森田 明

三、個人情報保護と学会誌編集

瀧澤利行

平成十八年三月例会

平成十八年三月二十五日

順天堂大学医学部十号館四階四〇三番教室

一、小野豊三郎の解剖学ノートの解剖図

坂井建雄

二、齋藤茂吉における病いと老いと

岡田靖雄

例会抄録

星薬科大学創立者 星一の生涯

三澤 美和

星薬科大学および星製薬株式会社の創立者である星一は、明治・大正・昭和にまたがる七十七歳の波乱万丈の生涯を送りました。その破天荒とも云える生き方はとても魅力的であります。没後六十余年経過しますが、わが国ばかりでなく世界の人々からも忘れられることなく、今でもしばしば星一の名前が登場し紹介され続けられています。この講演では星一の人生を跡付け、その人物と偉業を偲びたいと考えます。

一、はじめに

星一は、明治六年十二月二十五日に福島県石城郡、今のいわき市郊外で農家の長男として生まれました。

二、渡米と苦学

上京し、東京商業学校を卒業し、明治二十七年、二十一歳で渡米しました。明治中期一介の青年が世界を夢見て海を渡りました。苦学の末、ニューヨークにある名門コロンビア大学で統計と経済を学び卒業しました。十二年間の滞米生活で、自由で楽観的、進取的、建設的なアメリカの精神風土をたっぷりと吸収しました。

### 三. アメリカでの新聞社経営

コロンビア大学在学中、ニューヨークで週刊新聞『日米週報』を発刊しました。学生の身で、新聞記者兼新聞社の経営を行いました。この日米週報は、米国での初期の日本語新聞として歴史的にもその重要性が大きく位置づけられています。この頃から独特な個性がすでに頭角を現しています。

### 四. 星製薬株式会社設立

三十二歳で日本に帰国しました。日本で何をするかをよく考えた末、薬の事業であれば、初め小さくても末は無限に大きくなり、また世界に供給できる。地球の隅から隅まで人類の住んでいる所ならば供給できる。優良な薬を供給さえすれば、日本の国の偉いことも世界に知らせることができると。そういう信念をもつて製薬事業に取りかかりました。

施設は欧米の最先端の機械を導入、外国人技師を何人も雇っていました。星製薬は日本で始めてチェーン店制度を敷きました。「特約店」がそれです。全国に三万五千を数えました。

五. アルカロイド製造と輸出で日本の薬学界に大きな足跡  
星製薬そして星一と云えば、「東洋のアルカロイド王」として有名です。一般薬の事業が軌道にのると、大正四年頃からモルヒネを初めとするアルカロイドの製造に乗り出しました。

時代は第一次世界大戦が始まっており、欧州からの重要な医薬品の入手は困難を極めていました。こうした時代背景において台湾総督府の協力の下、阿片原料の払い下げが星製薬に行われました。大正四年わが国初の工業的モルヒネ製造に成

功しました。次々と重要なアルカロイドの製造に成功し、アルカロイド王と云われるに至ります。わが国におけるアルカロイドの製薬の創始者と云えます。

### 六. 日本一の製薬会社に発展

大正と昭和初期の主要な製薬会社の資本金を調べますと、大正七年頃からは武田、塩野義、三共、大日本、田辺をはるかに上回る日本一の製薬会社になっていきました。

### 七. 日独文化交流史に足跡

第一次大戦の敗北でドイツの化学界は困窮をきわめていました。星一はドイツ化学界に三百万マルクという巨額の資金援助を行いました。現在の価値では二十億円に相当します。この星一寄金によって三人のノーベル賞学者が生まれています。

### 八. 星薬科大学を残す

星薬科大学の創立は明治四十四年、星製薬株式会社が設立されたと同時に設けられた教育部門に端を発します。星一人の大切さを強く意識していました。「一人に人、二人に人、三人に人、万事人なり」として、人の教育育成を考えました。教育部門は、星薬業講習会、星製薬商業学校、星薬学専門学校、星薬科大学と発展していきました。星は限りなく学校を大切にしました。偉大な教育者でした。

### 九. 縦横無尽な人脈

星一の人生を顧みると、実にその人脈の豊かさに驚かされます。星一の生涯を大きくし、鮮やかに彩っています。伏見宮、朝香宮、伊藤博文、後藤新平、野口英世、広田弘毅、新

渡戸稲造、頭山満などがあげられます。

#### 十・国會議員、著作家

実業家として成功した星は、代議士選挙の立候補をすすめられました。衆議院議員四期、参議院議員一期の計十二年間国會議員をつとめました。戦後第一回の参議院選挙全国区では第一位で当選しました。

星一は著作家でもありました。多忙の身でこれほど多数の著作を残したことは驚異的なことと思います。

官吏学、選挙大学、親切第一、お母さんの創った日本—日本略史、支那の歴史、哲学・日本哲学、その他多数。

#### 十一・魅力溢れる人生哲学

社会教育者、ある種の思想家でもありました。星の最大の思想・哲学は「親切第一」です。星の云う「親切」は、自己に対して、何人に対して、職務に対して、物品に対して、時間に対して、学問に対して、金銭に対してなどすべてに向けてられています

#### 十二・逝去

星は、大正六、七年、南米ペルーに奈良県の面積に匹敵する土地を購入していました。ペルーの地に日本人移民を沢山送り、夢の楽園を築き上げる雄図実現の途中、昭和二十六年一月十九日米国ロスアンゼルスで客死しました。

#### 十三・総括

星一には、独特な発想力、氣宇宏大、破天荒、突進力(先頭に立って原野を切り開いていった)、信念の人、朴訥な人、

人脈の大きさ、人を思う心、惜しむらくは支える布陣に難があった、明治・大正期の巨星の一人、といった言葉が思い浮かびます。

(平成十七年十二月例会)

齋藤茂吉における病いと老いと

岡田 靖雄

一八八二年(明治一五年)五月一日に守谷家にうまれた齋藤茂吉は、一九〇九年六月三〇日(二十七歳)に卒業試験をまえに腸チフスを発し、一旦よくなったが一月に再発し、回復がおくれて、登校できるようになったのは翌年五月。そのため卒業は一年遅れの一九一〇年末になった。

東京府巢鴨病院には五年半つとめた。その間に養父齋藤紀一の娘でる子と結婚した。やめた年一九一七年の末に長崎医学専門学校教授に任ぜられたかれは、しばしば遊郭に登棲し(前半は単身)、そのため淋病性副睾丸炎による激痛にくるしんだ。一九二〇年一月六日インフルエンザにかかり、肺炎を併発し謠妄状態ヒトコトになった。

○はやりかぜヒトコト一年おそれ過ぎ来しが吾は臥われりて現うつつともなし回復したが六月二日に咯血し、入院につきぎ転地療養、血痰ときどき。旅先で同宿した耳鼻咽喉科の久保猪之吉の診察をうけて「気管支のただれだろう」といわれて「万歳！」と